

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
49	46

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科では、各種入学試験を通して、以下の各専門領域に強い関心を持つ志願者を求めています。

1. 日本語学、日本文学、日本の芸術・芸能
2. 琉球語学、琉球文学、琉球芸能
3. グローバル時代に求められる文化情報の発信技能・多様なコミュニケーションのあり方

特に、A O型入学試験では、以下のような能力、意欲をもった志願者を求めます。

- ①批評・創作(小説、詩、書、絵画、演劇など)を含む広い意味での表現活動、琉球文化の継承発展に関する活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ②国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭といった当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通して社会貢献を目指す人。
- ③国際交流活動、ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動) などを通して広い視野を備え、日本文化、琉球文化、多文化間交流などの専門領域を深く学びたいという意欲を持つ人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、アドミッションポリシーに基づき、3つの専門領域への関心の高さを評価するための試験問題を毎年出題しています。今年度は日本語(言語学)分野の問題を出題しました。問1では要約問題、問2では意見文問題となっており、上記の分野への関心进行评估するとともに、大学に入学する上で必要となる基礎的な知識技能である言語運用能力も問うています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

要約問題については、本文を構成する「問題提起(日本語は他言語と比べて絶対的には難しい)」「展開(日本語を難しく感じる国の人もいれば、やさしく感じる国の人もある)」「まとめ(学習者の国を問わず難しく感じる点は、単語数の多さ、待遇表現の仕組みの2点)」の3点が含まれていれば高い評価を与えています。本文中で多く紹介されている事例を省き、問題提起→展開→まとめという流れをつかむことが重要です。意見文問題については、言語への関心や知識を持つ受験生ほどより深い考察ができる問題になっています。例えば、「ひらがな・かたかななどの文字の種類が多さ」「漢字の読み方の多様さ」「音の数の少なさ」「動詞の活用のシンプルさ」といった視点から論を展開すると評価の高い意見文になります。また、本学科で専門的に学べる語学(日本語学・琉球語学、または比較対象としての世界各国の言語)との関わりに触れることで、日本文化学科のアドミッション・ポリシーとのマッチングをより強くアピールすることもできます。